

201022 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第 34 回）
（名古屋市民オンブズマンによるメモ）

10:00

鈴木保存整備室長：はじめる

佐治所長：出席ありがとう

議事 5 件、報告 1 件

来年 4 月の文化庁報告について頑張る

鈴木室長：出席者紹介

麓欠席

写真、ビデオはここまで

参考資料 今年度現状変更許可申請 まとめ 構成員に机上配布
座長に一任

瀬口：コロナが続いているがよろしく

き損地点説明

名古屋城：西之丸き損地点の調査と修復

趣旨、事前調査、発掘調査

成果に基づき修復案

6 月 22 日 31 回全体整備検討会議 事前調査について報告

その後の発掘調査、修復調査について報告

6 月 22 日 発掘調査の現状変更許可 7 月 17 日付で許可

7 月 28 日から発掘 ほぼ終了した

六番蔵毀損部分 五番蔵不適切

五番蔵は調査中

六番蔵について報告する

礎石、地覆石

礎石石材抜き取り痕跡

重機で攪乱された土　しまりが悪いことが予想
やわらかい土を除去　硬化面を検出
10か所中8か所確認できた
2石は礎石ではない　今回の毀損以前に取り除かれたと推測
石材判定基準　資料1-13
K,Q,R,S　土が違う　毀損以前の攪乱地点
承認いただけたら、修復の現状変更許可申請を文化庁に出したい
石を所定の場所に戻し、埋め戻す

10:21

名古屋城：今後の整備　1-27, 1-28
修復を最優先
外構工事の再開
オレンジ色着色　それぞれの蔵の位置　再度調査
蔵跡の展示方法も先生に相談したい
グレー　蔵跡表示以外　あらためてこの場で示したい
運用区分　赤い点線、青い点線
三番御蔵、四番御蔵　展示収蔵施設
点線部分を優先して整備したい
全体整備検討会議でご意見いただきたい

10:24

瀬口：意見は

高瀬：資料28

「発掘したが遺構は確認できなかった」
南端で礎石確認している
面的調査はしていない　トレンチ何か所かあけた
書いたほうがよい
六番御蔵南端　遺構であるという認識　書いたほうがよい
まったく不明であったという認識
そこは修正したほうがよい

村木副センター長：南端は調査した
建物の位置を特定する材料にならなかった
誤解を招く表現 修正を検討したい

瀬口：東西方向は
一間が金城温古録を参考にした 実際は違った
発掘調査を参考にしていないことは明らか
どうするか

村木：検討する

小濱：石を復元して埋め戻して、1-27
石の列埋め戻す 地中に隠れるのか
断面図 レベルがどの程度下がるのか
周囲を石で示す どのような関係か

名古屋城：発注内容 毀損事故
構造は、遺構面から10センチの保護層を設けて設計
今回の1-27左下断面
一番上に石材、モルタル、碎石、10センチ保護層 破損した石材が来る

小濱：350くらいが遺構面？

名古屋城：設計上はそう

小濱：重なっているように見える

名古屋城：礎石の芯の上に石材を乗せる

赤羽：現行の蔵跡表示方法

あらためて外構検討しなおすということで理解か？

名古屋城：そう

赤羽：五番蔵 施工されているが、これも含めて考え直すでよいか

名古屋城：蔵跡の表示方法 考え直す

五番蔵 コンクリートまでつくってある

可能であればコンクリートを生かしたい

赤羽：それも含めて考え直すべき

コンクリート撤去も考えて

名古屋城：必ず撤去しないとしないとは考えない

村木：五番蔵 不適切な施工

次回以降説明

高瀬：礎石があつてのべいしがあるということがわかるように

瀬口：現状変更に関しては特段意見はなかった

手続きを進めることでよいか

1-27 今後の外構整備 今後全体整備検討会議で扱う

後半の意見は次回以降

続いて御深井丸等地下遺構把握調査

10:35

名古屋城：プロジェクトで説明

対応状況 御深井丸 天守礎石 全体整備検討会議で諮る

中段黄色 天守礎石の整備方針

現天守再建時に移設

展望台から礎石が見えるように

経緯については、新聞記事以外資料がないか

礎石の写真

樹木の影 雨が降った後水はけが悪い

現在の位置のままと考えたい

御深井丸地下遺構の発掘調査と、礎石展示方法を考えたい

礎石置き場 構台の基礎

当初山砂で礎石を埋める→礎石に直接的に荷重をかけない

上の図が基礎案

村木：地下遺構発掘調査を計画

9月25日全体整備検討会議で諮った

10月12日石垣部会で検討

ご意見、ご指摘 あらためて全体整備検討会議で諮る

資料2-1, 2-2

前回は2メートルピッチ 5メートル間隔提案

細長い溝状を入れたほうがよいという意見

前回31か所 掘りすぎでは？

検討したが、そのまま石垣部会に示した

通路 外側がクラック 何に由来するか

石垣の対面 トレンチを入れすぎるのはどうか

資料3と4 絵図に資料があれば調査したほうがよい

御番所 確実に調査区として設定したほうがよい

水道 把握したほうがよい

・調査面積を増やさない

・絵図の建物を調査する

1) 対面トレンチの数を減らした

2) 水道 長めのトレンチを入れたい

3) 御番所 4メートル角のトレンチ
今日審議した後、現状変更許可申請をしたい
・ボーリング 変わっていない
調査とは切り離す

10:48
瀬口：意見は

赤羽：資料2-1 留意点
掘削深さ
トレンチを長く設定してはどうかと提案した
複数のトレンチを同時にあける
比較して地層を確認するほうが安全ではないか

村木：記述意図 立ち合い調査で一定程度ある
調査のやり方 一つの調査で一気には開けない
留意したい
どのようにするかは現地の判断
心にとどめたい

瀬口：ほかには
少し修正 よろしいか

高瀬：御番所 確認トレンチ
出てきたらどうするのか

村木：どういう遺構が出てくるかによる
工事で掘削するわけではない
工学的検討 その後の判断したい

高瀬：御深井丸 建物が少ない場所
本丸守る施設がいくつかある
御番所 意味がある わかるような表示を

村木：調査の跡は工事仮設設置想定
それは検討

瀬口：仮設構台設置 地下遺構の状況を把握
仮に御番所のあとがでて埋め戻す

村木：まずは遺構を確認 埋め戻す
工事をする

瀬口：仮設構台全体を調査しようというのは文化庁の指示か

村木：表でも示したが、文化庁から「指摘事項」
「地下遺構の状況を把握し、」確認調査

瀬口：ほかにはあるか
現状変更許可が必要になる
本日の報告で現状変更許可申請 ご了解いただけるか
ありがとう 手続きを進めたい
1時間たったので休憩
11:05まで休憩
10:55

11:05

瀬口：基礎構造の検討

名古屋城：資料3 説明する
再度説明する
特別史跡に指定されたときの状況

村木：藤井委員から、指定されたとき 穴蔵の取り扱い
昭和27年特別史跡
昭和7年を踏襲
昭和27年穴蔵石垣位置づけ 資料が確認できない
昭和25年 石の積み直し計画
昭和27年 積みなおし 昭和31年まで
大規模に改変
これから穴蔵石垣 特別史跡指定を改変するわけではないと確認

名古屋城：資料3の説明

修正箇所 緑色の字

真ん中 石垣に荷重をかけない理由

- ・被熱で劣化→木造よりはるかに重い SRC 釣り構造 ケーソンで支持
- ・課題 観覧者の安全確保、人命

考え方

①荷重が耐えられるか

定量的評価が必要

城郭石垣 現実的に非常に難しい

②現在工法に置き換えることはできない

③劣化 大地震時に崩壊する可能性

④内部石垣 現状積み方が不明 大地震時に崩壊の可能性が否定できない

大地震時に大きな被害 観覧者の安全を第一

復元天守が壊れないように

石垣で支持しない基礎構造にする

整理をし直した

- ・安全確保第一
- ・天守台石垣→「文化財である」削除

穴蔵石垣

三浦「戦後手が加えられたもの 復元の方法が間違っているのであれば
積み替えるべき」

留意点

- ①現況を踏まえて検討
- ②大地震時 外部石垣崩壊安全対策
内部石垣崩壊しないことを前提とした基礎構造検討
- ③安全確保 防火・避難

三浦「穴蔵石垣は戦後かなり手が加えられている」

現在調査分析を進めている

竹中工務店から、概略説明

竹中：資料配布していない

航空写真 右上 平面図撮影アングル

穴蔵石垣 変形は認められない 角出隅崩れている

近づくと熱劣化 角が丸くなっている

大天守穴蔵 拡大すると航空写真 角が崩れている

昭和27-31年 石垣積みなおし工事

5回に分けて行った 工事前、工事中、竣工

地上に見えている部分はすべて積みなおされていた

途中 上半分 栗石を積んでいた

新しく積みなおしている最中 奥行の長さがわかる

上段 焼失直後 宝暦大修理 ふさいだ後が残っている

新しい石材

大天守解体している写真 宝暦積み替えたもの

石垣積みなおす最中

昭和32-34年工事

ケーソン4つ沈める前 西から北側 石垣が外されている

沈め終わった

別のアングル 人がたっている 穴蔵石垣

人が立てるほど残して掘削

平面図 大天守 クランプ部分を撤去 ケーソンを埋める

外側 大天守西側 ケーソン沈下でゆがんだ

東側 積み替えている

小天守穴蔵 工事中に斜面崩壊を防ぐためモルタル吹き付ける

小天守南側 この部分が外されている

小天守内部 大天守に向かう部分 鉄骨を設置

石垣と重なっている 周囲の石垣を外した

現在 小天守から観覧ルート
鉄骨の柱はこれ よけて石垣を積みなおしている
左側 もう一度積みなおしている
中はおそらくコンクリート構造体がある
エレベーター前 この辺の石垣 江戸期は板の壁が張られていた
普通に見える天守の石垣

11:24

名古屋城：戦後かなり手が加えられている
調査 引き続き進めている
資料3以上
今後 基礎構造の考え方を基本
調整会議で詳細なことを検討
今日考え方についてご意見を頂けたら

瀬口：修正して出していただいた
ご意見ご質問は

小濱：工事中の写真 はじめてみた
穴蔵石垣がほとんど積みなおされている
往時の材料がつかわれるかわからない
どこにどういう材料がつかわれているか
今度の復元 穴蔵石垣が積みかえできるのか
基礎構造の議論に影響がある
積み替えできるなら、積み替えして
安定した支持構造を選ぶためにも、穴蔵石垣積み替えが可能かどうか
不安定な基礎構造になりかえない
条件をはっきりして

名古屋城：ご意見ありがとう
石垣を解体する解体しない 結論としてあるわけではない
天守復元をどうするか

調整会議で議論

どういった形で石垣を整備していくか

今いただいた意見は踏まえて検討したい

瀬口：ほかには

赤羽：竹中写真

石垣部会に提示されていない

はじめてみた

石垣部会に大きな問題 提示をしていただくのは必要

名古屋城の資料ではなく 竹中の資料かもしれないがやり方がおかしい

大天守石垣 コンクリート天守を作るときに手が加えられている

写真 コンクリート 当時苦勞しているかわかる

文化財的存在

穴蔵 セレモニー 作り直したから文化財的意味がないわけではない

写真で実感した

名古屋城：戦後かなり苦勞して今の天守を施工した

その前に石垣を修理した

記録を残す

工事をするうえで、記録を残す

有識者会議、部会で意見をいただいている

今日竹中から写真説明した

おそらく2年前 多分あると思う

基礎構造 現状把握する 会議としては調整会議ですすめたい

両会議、親会議にも報告する

写真も紹介したい

村木：穴蔵 石垣部会で議論していない

今後部会にも提示したい

藤井：教えて

再建されるとき背景

穴蔵石垣 石垣積み替えたときの裏側はコンクリートか？

栗石か土か

ちょっと説明確認

名古屋城：記録がその部分 知りたい

その部分 把握しきっていない

石垣調査の中で、レーザー測量、ビデオスコープ

わかる範囲で調査

穴蔵の背面 部分的にはモルタル

戦後外部からモルタル注入

その範囲どこか正確かわかっていない

石垣部会 外部石垣調査を諮っている

現状はわかっていない

瀬口：ほかには

赤羽：木造復元天守 右上

理想の姿 課題

理想：史実に忠実な木造復元 (主架構・外観・内観)

3つがそろえば史実に忠実か？

材質は？

防火壁、エレベーター

史実に忠実な木造復元 含まれるのか

名古屋城：「理想な姿」

両方が100点は難しいが望むこと

材質、工法

文化庁が定める基準に基づいてやっていく

概念を書いている

今後、エレベーター、防火、人の安全

基準に基づいて
今後文化庁指摘事項回答
それ以降に復元検討委員会に諮っていただけるとき
そのうえで復元
最終的な整備の形が整っていく
そのスタートに立ちたい

瀬口：「理想の姿」言葉がよくない
なにが理想か？
どこまで忠実にやるか

丸山：ケーソンを打って
当時の技術力 写真
モルタルを吹き付けている
全体でやっている
崩れないため小石を積んだ→垂直に？
そこもコンクリート？
ぜひ工法的なものもなかなか難しいかもしれないが、
竹中専門にやっている
昭和 20 年代にどのようにやっていたか調べて

瀬口：ほかには
今日提示されている基礎構造の考え方について
小濱委員から、「積み替えないと不安定になるのか」
補足することはあるか
少し修正 基本的な考え方は了承されたてよいか
了承された
調整会議を設置する
穴蔵構造について、基礎構造の考え方を前提にして
結果を全体整備検討会議に報告
議題 4 天守台ボーリング調査

11:41

名古屋城：ボーリング調査

仮設物、現天守解体リバウンドの影響、地震時のケーソンの影響

資料4-2

3 設計図 ケーソン断面 赤枠 あと詰めコンクリート

全体にコンクリートが充填されているか不明

施工記録が残っていない

3本ボーリング ①②地震波作成

③構造解析に必要

天守台石垣の工学的解析

天守閣部会 了解をいただいている

今日了解いただければ石垣部会に諮りたい

小濱：ケーソンの詳細わかっていない 意味がある

ケーソンの長さ、先端の状況

ケーソン内部 どこまで入っているのか

全部コンクリートが詰まっていたらボーリングが大変

中は土でも構わない

ボーリングできるのか

名古屋城：大変だと思うがやる

瀬口：ケーソンの重量はどれくらいか

名古屋城：4本で8000トン

瀬口：10000トンを超えていると思う

名古屋城：8800トン

瀬口：当時の記録では 10000 トンを超える
ボーリングをやるとしても、比重を調べて

高瀬：資料 4-1 左下の図面
想定支持地盤 高さが違う
小天守は荷重が小さいから？
想定工学的基盤 把握する目的は理解できない

名古屋城：ps 検層
工学的基盤からの地震波を把握する

高瀬：想定支持地盤 大小で違う 荷重が違うから？

名古屋城：そう

小濱：想定支持地盤 延長荷重の支持地盤
想定工学的基盤 地震波計算
地震動を決めてやる

瀬口：ほかには

丸山：水位
ボーリング ケーソンを沈める コンクリートで詰める
水位が書いてある 水がでるのか？

名古屋城：自由地下水位 堀底から 2 メートル

丸山：水がでててもボーリングは大丈夫か？

名古屋城：比重が高いものをいれるのでよい

瀬口：ほかには

以上 補足質問をいただいた

これについては、石垣部会に話をして、報告

天守閣部会は話をした

結果を全体整備検討会議で報告

次は最後 二の丸地区発掘

名古屋城：二の丸地区発掘

石垣部会でいただいた意見 経緯

優先順位をつけて負担がないように

調査区の設定 近世と近代が重なるほうがよいのか

資料修正はない

引き続き発掘調査とともに検討

了承をいただければ現状変更許可申請をしたい

瀬口：前回とほぼかわらない

ご意見は？

高瀬：資料5-4

令和2年度にどこを調査するかはわかる

令和3年度からはどこを調査するのか

何を目標して調査するのか 考えないと

調査自体の方向性が誤る可能性

名古屋城：令和3年度以降

調査目的 保存状況試掘

整理したうえで今後調査を検討
何を目指して？残存状況の試掘
二の丸地区全体の整備について考える

瀬口：前回高瀬「二の丸整備を作ってから発掘を」
基本構想をつくって

名古屋城：そう

瀬口：基本構想ができてから、発掘調査計画を立てる
体育館移転 2026年以降
4-5年はある
慌てて掘らなくてよい

名古屋城：体育館がなくなるのはもう少し先
試掘調査を検証しながら考える

瀬口：ほかにはどうか
本年度発掘調査 ここで了解 現状変更許可申請を進めていただく
よろしいということで手続き進めて
議題5つは終わった 事務局に返す

鈴木整備室長：ありがとう
1点ご報告

名古屋城：最後に金シャチ地上におろして
取り外し 遺構に影響ないように
現状変更許可申請が必要
入場者数 今年度 9割の減少

魅力に触れていただく機会が減っている
コロナウィルス感染症拡大
展覧 パネル等設置
市単独ではなく、実行委員会形式
現段階で検討中
屋根上金シャチ取り外して、ヘリでおろす
栄で展示

鈴木室長：なにかあれば

三浦：お金をかけておろす
金シャチ破損調査
目視 1日くらいかけて
木造再建 金シャチをどうするか
決定ができていない状態
簡単な調査を
現状変更 破損調査を理由に加えて
木造再建と書かなくてよい

名古屋城：検討したい

鈴木室長：長時間ありがとう
現状変更
業務過密にならないよう、施工時期は考える
終了 ありがとう
12:04